

道立高等学校長庁内公募 ( 期末 ) 報告

学校(所属)名	職名	氏名	年齢	公募校長としての着任年月日
北海道鶴川高等学校	校長	三村 素道		令和2年4月1日

1 これまで取り組んできた改革  
 『持続可能な連携型中高一貫教育のモデルプラン』の形成

2 進捗状況及び成果

■ 地域との連携体制の確立

- ・むかわ町との連携協定締結 (令和2年度)
- ・高校魅力化コンソーシアムの設置 (令和2年度) (30団体50名で構成)
- ・高校魅力化コーディネーターの配置 (令和2年度)
- ・地域みらい留学365の導入 (令和2年度)
- (令和3年度1名、令和4年度1名、令和5年度最終選考対象者4名→2名に決定)
- ・学校運営協議会の設置 (令和3年度)
- ・むかわ町公営塾「夢叶輪公営塾」の開設 (令和3年11月～) (1日平均5～6名が活用)
- ・むかわ町と鶴川高校及び札幌大学との包括的連携協定締結 (令和4年3月)
- ・全国からの生徒募集 (令和5年度より開始 令和5年度は1名入学)

■ 機動的な校内組織体制の確立

- ・委員会・ワーキンググループの整理統合 (令和2年)
- ・ワーキンググループを発展的に解消し、分掌に位置づけ (令和5年度)
- ・複数担任制の実施 (令和3年度～)

■ 地域全体をキャンパスとした学びの充実

- ・「デュアルシステム」の実施 (令和2年度～) (令和4年度は地域の12団体で実施)
- ・「むかわ学」におけるゼミ形式の導入 (令和2年度～)
- ・「むかわ学」から生まれた各種プロジェクトの実施 (令和3年度～)
- ・「むかわ学」を起点に全道・全国規模のコンテストへの参加 (令和3年度～)
- ・高大地連携による人材育成プロジェクトの開始 (令和4年度～)
- ・地域で学ぶ小中高12年間の学びの接続としての「むかわスタンダード」作成 (令和3年度)
- ・学校HPや各種SNS、新聞・テレビ・ラジオ等のメディアを通じた広報活動
- ・全学年一斉での観点別評価の導入により令和4年度より定期考査を廃止

めざす学校像 (そう思う・やや思うの割合)	地域・中学校	保護者	生徒
○生徒のよりよい自己実現を目指し、絶えず研鑽に励み、専門性を高め、質の高い教育活動の実践に努めるとともに、生徒が「行きたい」と思う学校づくりに努める	95%	86%	86%
○学校課題の解決を図るため、地域や専門機関等との連携を図りながら、積極的に教育活動の改善・充実に努める	95%	91%	92%
○学校経営参画意識の高揚を図り、組織体としての機能を高め、協働体制の確立に努める	93%	86%	80%
○連携型中高一貫教育等の充実を図り、地域から信頼され「活かしたい」と思われる学校づくりに努める	90%	93%	90%
○地域や保護者等との連携・協働に努め、教育環境の整備に努めるとともに、保護者が「行かせたい」と思う学校づくりに努める	80%	80%	83%

入学者数推移	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
鶴川中学校	13	20	11 (25%)	12 (32%)	11 (32%)	10 (22%)	20 (41%)	14 (38%)	7 (19%)
胆振東学区	28	32	29	25	26	22	15	24	12
その他	23	10	9	12	17	14	16	12	19 (道外含)
合計	64	62	49	49	54	46	51	50	38

■ ミドルリーダーによる自立的運営の見守りと支援

- ・本校が目指す教育活動及び進路指導の方向性に係る研修の実施 (令和2年度～)
- ・育成を目指す資質・能力の見直し (令和2年度)
- ・ミドルリーダー及び全職員に対する組織体制に係る研修の実施 (令和2年度～)
- ・ミドルリーダーを核とした学校運営への段階的移行 (令和3年度)
- ・コアチームによる校務のオンライン化や業務効率化の推進 (令和3年度～)
- ・校内研修による各種教育活動の目線合わせと中間反省で整理された改善策の実施
- ・進路指導や探究学習とタイアップしたむかわ町公営塾の活用
- ・生徒指導部主導による生徒・保護者・地域との対話による校則の見直し

3 課題及び解決に向けた方策

- 地域全体をキャンパスとした学び (「むかわ学」、「チャレンジスタディ」等) の充実
- 生徒募集の充実
- ポストコロナ期における教育活動

4 成果と課題を踏まえた今後の取組予定

- ・高大地連携、連携型中高一貫を含めた地域全体をキャンパスとした学びの充実
- ・周辺中学校や地域への発信強化
- ・コロナ期を踏まえた教育活動再開内容の検討と実施